

# 平成21年度事業報告書

学校法人新潟青陵学園

## 目 次

序文 .....	1
1 教育方針・教育目標 .....	2
2 沿革 .....	7
3 設置する学校の概要 .....	8
1) 設置する学校・学部・学科等 .....	8
2) 当該学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況 .....	8
3) 役員・教職員の概要等 .....	10
4 事業の概要 .....	12
1) 当該年度の事業（経営）の概要 .....	12
2) 当該年度の主な事業の目的・計画 .....	20
3) 当該計画の進捗状況等 .....	23
5 財務の概要 .....	29
1) 平成21年度決算額 .....	29
2) 経年比較等 .....	31
3) 過年度の資産総額（純資産額）の推移 .....	33

## 平成21年度事業報告書

学校法人新潟青陵学園

中央教育審議会大学分科会は、文部科学大臣から「中長期的な大学教育の在り方について」諮問を受けて昨年9月11日から審議を行ってきた。平成21年6月15日には第一次報告を、8月26日には質保証システム、大学院教育、学生支援・学習環境整備に関する第二次報告を行っている。

質保証システムでは、設置基準・設置認可審査・認証評価の歴史的経緯や課題を整理している。ことに認証評価にあつては各大学に自己点検・評価の実質化を求めるもので、認証評価を通じて確認することが求められている。このような背景もあつて、財団法人大学基準協会は、第二期の新認証評価制度の検討において、新評価基準と評価項目（視点）を設定するなど、認証評価システム全般に亘る大幅な変更を予定している。新しい評価システムは、主体的・自律的な教育の質保証を評価するもので、大学自身による内部質保証機能の充実を期待している。また、その目的として、①自己点検・評価体制が整備され、確実に機能していることを確認する、②自己点検・評価に基づく改革・改善が着実に実行されることを支援する、③自己点検・評価における自己評価が妥当なものであるかどうかを判断する、ことにあるとしている。さらに、記述内容の客観性、妥当性を担保するために、根拠資料（エビデンス）を明確にすることを求めている。

また、学生支援・学習環境整備の観点からの質保証の検討を求めている。例えば、学生相談、学修支援、経済的支援、また、図書館等の学習環境、課外教育施設、コミュニケーションスペース等の整備およびキャリアガイダンスの充実を求めている。

一方、新しい変革として、平成21年8月30日の衆議院議員選挙の結果、民主党が308議席を獲得し、9月16日に招集された特別国会で首班指名が行われて政権が交代した。政治の仕組みも大きく変わって、政策を政治主導で行うべく、与党議員と各省庁とで「政策会議」が持たれ、高校無償化、奨学金の拡充、教員の資質と数の充実、大学の教育力・研究力の強化という新しい課題が提起されるようになっているものの、学校法人の経営環境は引き続き厳しさを増している。

翻って、新潟青陵学園の平成21年度は、平成20年度が大学・短期大学部6号館校舎の完成を代表とする大きな変革の年であったことに比して、これらの変革を基盤に修士課程教育・学士課程教育・短期大学士課程教育のさらなる充実発展を目標としたため、規模・内容がやや新鮮みに欠けたが、大学・短期大学部にあつては、平成19年度から継続事業として実施している校舎の外壁改修工事の施工を年次計画に沿って実施し、3号館校舎の改修を行った。また、文部科学省の就職支援の強化など総合的な学生支援を目的とした競争的資金による補助事業「大学教育・学生支援推進事業」（学生支援推進プログラム）に、大学・短期大学共同の取り組みである「新潟青陵トリプルサポートプログラムによる学生支援」が採択され、平成19年度から3年連続での補助金獲得となったほか、競争的研究資金である科学研究費補助金（科研費）においても昨年の3件を上回る5件（うち1件は短期大学部）が採択された。

高等学校にあっては、近年の大学進学希望者の増加や普通科志向の高まりの中で、定員割れの続く生活服飾科を募集停止し、高校・大学・短期大学部がそろっている新潟青陵学園の特色を生かして目的意識の明確な生徒の入学を促進し、学校の活性化を目指すとともに、定員確保に資するという構想のもとに、県内初の高大一貫コースの新設を進めた。

中学校の様子見ということもあり、予定した定員には満たなかったが、高校入試の学力レベルを大幅に引き上げ、中学校、塾等への広報にも努めた結果、目的意識のはっきりした意欲ある36人の入学者を獲得し、来年度以降に希望をつなぐことができた。

また、来年度から高大一貫コースと特別進学コースで土曜授業を実施することや、総合進学コースも含め全校で朝テストを実施することにより、生徒の基礎学力アップと家庭学習時間の増加等を目指すこととした。

以上のように平成21年度の諸事業の実施は、着実に進展しその実績を残すこととなった。なお、その他の事業実績は、「事業の概要」「財務の概要」の項において詳しく記載することにした。

次に、教育方針・教育目標、沿革、設置する学校の概要、事業の概要、財務の概要を示す。

## 1 教育方針・教育目標

### <新潟青陵大学大学院・新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部>

本学では、“教育方針・教育目標”を設定して、「本学が目指す学生の姿」「本学が目指す教職員の姿」並びに本学の設置母体である新潟青陵学園の「本学園が目指す学園の姿」の三つのアドミッション・ポリシーを以下のように提示している。

#### —— 本学の教育方針・教育目標 ——

##### 一 本学が目指す学生の姿

- 1 学生は、尊敬されるに足る人間として自ら持(たの)むところを確かにするとともに、自己の能力の実現に努力を惜しまない。
  - (ア) 自他の生命に対する畏敬の念を持ち、お互いに生かされ、助けあっていることに感謝し、広い視野と慈しみの心を持って人間及び社会の本質を理解できる。
  - (イ) 様々なものに感動する心を持ち、それを言葉や音楽、絵画、身体などを通じて創造的に表現できる。
  - (ウ) 周囲の現実を把握し、社会にあっては上司、同僚、家族、学内にあっては教職員、友人などと認識を共有し、かつ自己の意見を発表してこれを理解させることができる。
- 2 学生は、社会人として必要な基本的教養と礼儀を身に付けている。
  - (ア) 隣人に対して、笑顔で気持ちよく挨拶することができる。
  - (イ) 相手の立場を尊重し、意見に耳を傾け、時間や約束が守れる。
  - (ウ) 自己責任の原則を理解し、自分の態度や習慣、身だしなみを客観的に評価できる。

- (エ) 弱者を助けるためや、住みよい環境整備のために自らの犠牲をいとわないなど、公共の意義を理解している。
  - (オ) 生涯にわたって継続して培う意義がある趣味を持っている。
- 3 学生は、新入社会人として必要な知識、技能を身に付けている。
- (ア) 専門職としての見識と能力を保持し（必要な検定や資格を取得する。）、さらにその向上に努めている。
  - (イ) 国内外の政治、経済、社会事情について、新聞などにより、周囲の会話に参加できる程度の一般常識がある。
  - (ウ) 人前で3分間程度のスピーチが原稿無しでできる。
  - (エ) 読解、計算などの基本的能力に自信を持ち、少なくとも一つ以上の外国語について日常基礎会話ができる。
  - (オ) 専門の業務に必要なコンピュータによる情報処理能力を身に付ける。

## 二 本学が目指す教職員の姿

- 1 本学教職員は、その目的意識（志）、言動、姿勢をもって、学生に感動を伝えることを最大の価値とし、学生から敬愛され、評価される存在である。
- (ア) 学生の人格と立場を尊重し、学業遂行、授業理解支援のために最善の努力を惜しまない。
  - (イ) 授業内外の指導、事務の応接などを通じて、人格的な感化を及ぼす存在である。
  - (ウ) 学生の態度や習慣、身だしなみを指導するにあたって、率先してその範を示す存在である。
- 2 本学教職員は、地域に貢献し、評価される本学の、価値ある不可欠の構成員である。
- (ア) 本学が目指す姿を自らのものとし、その達成に全力を尽くしている。
  - (イ) 自らの属する学部、学科、部課その他のグループ全体の向上、発展のために創意、工夫と献身的努力を惜しまない。
  - (ウ) 本学において、上司、同僚及び部下から敬愛される存在である。
  - (エ) 地域社会において、よき隣人であると共に、本学を代表して尊敬される存在である。
- 3 本学教職員は、その研究分野又は担当する事務の分野において、本学内外から評価され、尊敬される存在である。

## 三 本学園が目指す学園の姿

- 1 本学園は、上記の項目に掲げた資質を備えた学生の育成に全力を尽くすとともに、地域の社会人に開かれた存在である。
- (ア) 理事会を中心とするリーダーシップの発揮と教授会、職員会議などによる教職員の意見申し出との調和が図られている。

- (イ) 保護者、卒業生代表、地域、職域代表などからの意見を積極的に吸い上げ、地域に密着する教育目標の設定など学校運営の重要事項に反映している。
  - (ウ) 科目履修など、社会人教育の充実が図られている。
  - (エ) 公開講座、図書館利用など市民の便宜が図られている。
  - (オ) 周辺、近隣地域との結びつきに支えられている。
- 2 本学園は、学生及び地域社会を顧客とし、顧客満足を徹底している。
- (ア) 専門的、目的的教育に関し、地元企業の発展の方向に即している。
  - (イ) 就職活動支援その他学生の面倒見の良いことで知られている。
  - (ウ) 学生の専門的な資格又は検定の取得支援の対策が充分である。
- 3 本学園は、教職員の十分な満足を得ている。
- (ア) 本学園が顧客満足の成果を収め、教職員の創意工夫が生かされているなど、教職員に自己実現の満足感がある。
  - (イ) 本学園が内外の環境変化に対応して発展する意欲と能力を持ち、地域が誇りとし得る学園を目指すなど学園の将来に不安がない。
  - (ウ) 環境問題など今日的な関心事に率先して対応する積極性がある。
  - (エ) 学園の情報は充分に開示され、学園内の意思の疎通に支障がない。
  - (オ) 教職員は、能力とその成果によって酬いられ、かつその待遇は、県内類似の職種に比して劣るところがない。
  - (カ) 男女共同参画社会実現などの勤務環境が保証され、阻害要因是正の為の苦情処理制度が整備されている。

—— 養成しようとする人材像及び教育目標 ——

**【新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科】**

本学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻の教育研究上の目的は、臨床心理学とその関係分野において実践的な教育と研究を通じ、高度な専門知識を修得させるとともに、職業人として自律した心理臨床家を育成することにある。

**【新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科】**

看護学科の教育上の目的は、看護に必要な知識と技術を修得させるとともに、広く深い教養と豊かな人間性を培い、看護の専門職として国際社会において貢献することのできる人材を育成することにある。

**【新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科】**

福祉心理学科の教育上の目的は、生命尊重・人間尊重の理念に基づき、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上を図るため、福祉学・心理学・社会学等の専門知識・技術の応用力、および、豊かな感性、国際感覚を持ち合わせた専門家を養成することにある。

### 【新潟青陵大学短期大学部人間総合学科】

人間総合学科の教育上の目的は、人生に目的（志）を持ち、それを実現するに十分な表現能力や豊かな感性とライフサイクルに対応して地域社会に貢献できる知識や技術（多様な資格と検定）を身につけた人材を養成することにある。

### 【新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科】

幼児教育学科の教育上の目的は、幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある。

### <新潟青陵高等学校>

高等学校では、“校訓”及び“教育目標”に基づくとともに、「学校運営の方針（ビジョン）」を設定して教育活動に当たっている。

#### — 校 訓 —

「至誠」（まごころ）

#### — 教育目標 —

- ① 意欲的な学習態度を身につけ、個性豊かな創造力を養う。
- ② 明るい学校生活をとおして友情と人間愛を養う。
- ③ 自主・自律の精神を養い、勤労意欲を高める。
- ④ 心身ともに健康な人間を育成する。

#### — 学校運営の方針（ビジョン） —

##### 1 基本方針

- (1) 校訓「至誠」を胸に、自信と自覚を持って生きる志の高い生徒を育成する。
- (2) 生徒・保護者のニーズに応え、大学進学をはじめとする進路希望の実現に努める。

##### 2 具体的方針

###### (1) 定員の確保

- ① 積極的な生徒募集活動により本校のPRに努め、入学定員を確保する。
- ② 入学後のきめ細かい指導で転退学防止に努め、在籍生徒定員を確保する。

###### (2) 充実した高校生活の創造

- ① 本校の一員となった生徒が、自信と自覚を感得できるような指導に努める。
- ② 「あいさつ・身だしなみ・時間厳守」を生徒に良く理解させ、全教職員で指導する。
- ③ 基礎学力向上のため、予習—授業—復習の学習サイクルの徹底に努める。
- ④ 部活動を一層活性化し、生徒の居場所づくりと文武両道の気風の確立に努める。

###### (3) 希望する進路の実現

- ① 生徒が夢や目標、高い志を持って進んでいけるよう、キャリア教育に努める。
- ② 全ての生徒の進路希望の実現を目指し、きめ細かい進路指導を行う。
- ③ 大学・短大への進学について、生徒・保護者の希望どおりの実現を目指す。

- (4) 保護者との連携
  - ① 保護者との連携を強め、保護者から理解され信頼される学校づくりに努める。
  - ② 生徒の生活習慣・学習習慣の確立のため、学校と保護者が協力して当たる。
- (5) 教職員の研修等
  - ① 「教育は人なり」の観点から教職員の研修の機会を拡充し、資質の向上に努める。
  - ② 教職員、生徒、保護者による学校評価を実施し、その結果の活用に努める。

### <新潟青陵幼稚園>

本園は、シュタイナー教育を方針とし、「意欲を持って取り組む子ども、やさしく、賢く、よく遊ぶ子ども」を教育目標に掲げ、人格の基礎を形成することを目指している。また、幼稚園教育要領「遊びを通しての指導を中心として、ねらいが総合的に達成されるようにすること」を踏まえて、“遊び”を中心とした指導を行っている。

以上の“教育方針・教育目標”の下に本園では、以下のアドミッション・ポリシーを提示している。

#### 一 本園が目指す幼児の姿

- 1 主体的に意欲をもって物事に取り組む子ども  
幼児が自らの想像力により遊びを作り出していくことができるように、幼児の興味関心を捉えた環境を設定し、じっくりと取り組むことができる場、時間的空間を確保する。
- 2 友だちを思いやり一緒にいることを楽しみ、よく考え、よく遊ぶ子ども  
良質な自然素材を使った環境を構成して、多用な経験を重ねることができるようにし、遊びを通して、物の性質や数、量等を体験して知ることができるようにする。園内および周辺の自然に触れる機会を多く設け、幼児のセンス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）を育む。ゆったりとしたリズムのある園生活の時間を設定し、幼児が他児と深いつながりを持ち、自分の気持ちを表現し、相手の気持ちを考えることができる豊かな人間関係を作ることができるようにする。

#### 二 本園が目指す保護者の姿

- 1 幼児が安心して信頼する存在、模倣の対象として存在する
- 2 幼児一人ひとりの人格を尊重し、深い愛を持って接する
- 3 幼児がどのような状態であっても、幼児の気持ちに寄り添い、幼児の思いを理解する

## 2 沿革

明治33年	4月	下田歌子女史の帝国婦人協会新潟支会により、修業年限3か年の学校「裁縫伝習所」として呱呱の声をあぐ
	7月	校名を「新潟女子工芸」と改称
43年	6月	西堀通り2番町に校舎新築
昭和13年	1月	財団法人組織に変更
19年	4月	校名を財団法人新潟高等実践女学校と改称
21年	4月	校名を財団法人新潟女子工芸学校と改称
23年	4月	学制改革により校名を新潟女子工芸高等学校と改称、併設中学校設置
26年	3月	私立学校法により学校法人組織に変更
32年10月		水道町1丁目に校舎新築移転
35年	4月	高等学校に普通科増設
36年	4月	高等学校の上に修業年限2か年の専攻科（短大の前身）を設置
37年	4月	高等学校に商業科増設
40年	4月	法人名を新潟青陵学園と改称、新潟青陵高等学校、新潟青陵中学校に校名を改称、新潟青陵女子短期大学を開学（被服科）
42年	4月	新潟青陵幼稚園を設置
43年	4月	短期大学に幼児教育科増設
45年	4月	新潟青陵学園寄宿舍（ひめまつ荘）新築
46年	3月	高等学校鉄筋4階建校舎増築竣工
47年	4月	高等学校鉄筋校舎増築、第2体育館新築竣工 短期大学に専攻科（服飾美術専攻、幼児教育専攻）増設
48年	1月	学園用地44,000㎡を購入
50年	4月	短期大学被服科を服飾美術科に改称
57年	4月	新潟青陵中学校廃止
61年	3月	高等学校鉄筋4階建校舎（管理棟）新築
62年	3月	高等学校鉄筋2層構造4階建体育館新築
平成3年	4月	新潟青陵学園寄宿舍（ひめまつ荘）を廃止し、短期大学教育施設「3号館」に用途を変更
	4年	4月 短期大学服飾美術科を生活文化学科に、幼児教育科を幼児教育学科に改称、新潟青陵幼稚園を新潟青陵女子短期大学附属幼稚園に改称
	5年	4月 短期大学専攻科廃止
	6年	4月 高等学校被服科を生活服飾科に改称
	8年	4月 短期大学に福祉心理学科、国際文化学科増設
12年	4月	新潟青陵大学（看護福祉心理学部看護学科、福祉心理学科）開学
12年10月		新潟青陵学園（新潟青陵高等学校）創立100周年記念式典挙行
13年	5月	短期大学福祉心理学科廃止
15年	5月	高等学校商業科廃止

- 16年 4月 短期大学の名称を新潟青陵大学短期大学部に改称、人間総合学科増設、幼稚園の名称を新潟青陵幼稚園に改称
- 10月 大学キャンパスに校舎「5号館」新築
- 17年 4月 新潟青陵大学福祉心理学科にソーシャルワーク、福祉ケア、子ども発達サポート、心理カウンセリングのコース制導入  
短期大学部人間総合学科に人間総合、介護福祉のコース制導入  
短期大学部生活文化学科、国際文化学科廃止
- 18年 4月 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻（修士課程）開設
- 19年 3月 財団法人短期大学基準協会による平成18年度第三者評価の適格認定を受ける
- 19年 5月 大学キャンパス隣接地 1,326.16 m<sup>2</sup>を購入
- 20年 3月 財団法人大学基準協会による平成19年度大学評価結果ならびに認証評価結果において大学基準に適合していると認定される
- 9月 大学キャンパスに校舎「6号館」新築
- 10月 新潟青陵大学認定看護師研修センター開設

### 3 設置する学校の概要

#### 1) 設置する学校・学部・学科等

新潟青陵大学

大学院 臨床心理学研究科（平成18年度開設）

看護福祉心理学部 看護学科（平成12年度開設）

福祉心理学科（平成12年度開設）

新潟青陵大学短期大学部 幼児教育学科（昭和43年度開設）

人間総合学科（平成16年度開設）

新潟青陵高等学校 生活服飾科（昭和23年度開設）

普通科（昭和35年度開設）

新潟青陵幼稚園（昭和42年度開設）

#### 2) 当該学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況

ア、20年度（募集年度）および21年度（入学年度）

##### 【新潟青陵大学大学院】

学 科	入学定員	1年	2年			計	収容定員	充足率
臨床心理学研究科	10	11	11	-	-	21	20	1.05

【新潟青陵大学】

学 科	入学定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員	充足率
看護学科	80 3年 10	87	84	81 10	83 8	353	340	1.04
福祉心理学科	110 3年 10	138	128	128 10	124 13	541	440	1.23
計	210	215	212	229	228	894	780	1.15

【新潟青陵大学短期大学部】

学 科	入学定員	1年	2年			計	収容定員	充足率
人間総合学科	200	261	253	-	-	514	400	1.29
幼児教育学科	130	142	129	-	-	271	230	1.18
計	330	403	382	-	-	785	630	1.25

【新潟青陵高等学校】

学 科	入学定員	1年	2年	3年		計	収容定員	充足率
普通科	360	372	332	304	-	1008	1080	0.93
生活服飾科	36	29	28	21	-	78	108	0.72
計	396	401	360	325	-	1086	1188	0.91

【新潟青陵幼稚園】

学 科	入学定員	3才児	4才児	5才児		計	収容定員	充足率
計	50	41	56	41	-	138	150	0.92

イ、参考：21年度（募集年度）および22年度（入学年度）の状況

【新潟青陵大学大学院】

学 科	入学定員	受験者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	現員	収容充足率
臨床心理学研究科	10	22	14	12	1.20	20	24	1.20

【新潟青陵大学】

学 科	入学定員	受験者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	現員	収容充足率
看 護 学 科	80	452	152	84	1.05	340	349	1.03
	3年次	10	13	12	0.80			
福祉心理学科	110	528	215	129	1.17	450	543	1.21
	3年次	10	10	10	1.00			
計	210	1003	389	231	1.10	790	892	1.13

【新潟青陵大学短期大学部】

学 科	入学定員	受験者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	現員	収容充足率
人間総合学科	200	282	264	229	1.15	400	488	1.22
幼児教育学科	130	427	145	135	1.04	260	274	1.05
計	330	709	409	364	1.10	660	762	1.15

【新潟青陵高等学校】

学 科	入学定員	受験者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	現員	収容充足率
普 通 科	396	1060	1034	345	0.87	1116	999	0.90
生活服飾科	-	-	-	-	-	72	55	0.76
計	396	1060	1034	345	0.87	1188	1054	0.89

【新潟青陵幼稚園】

3才児			4才児			5才児			収容定員	現員	収容充足率
募集数	応募数	入園数	募集数	応募数	入園数	募集数	応募数	入園数			
46	55	53	若干名	10	10	若干名	0	0	150	152	1.01

3) 役員・教職員の概要等

ア、役員（平成21年4月1日現在）

	氏 名	就任年月日	重任年月日	選任条項
理 事 長	関 昭 一	5. 4. 1	20. 4. 1	短大学長
常務理事	大 谷 一 男	6. 4. 1	18. 4. 1	理事会選任
理 事	坂 井 熙 一	3. 1. 24	19. 4. 1	評議員会選任
理 事	石 本 隆太郎	14. 4. 1	18. 4. 1	同上
理 事	大 川 賢 一	19. 4. 1		理事会選任
理 事	牧 野 庄 三	20. 4. 1		同上
理 事	清 水 不二雄	18. 4. 1	19. 4. 1	大学学長
理 事	半 藤 保	15. 4. 1	19. 4. 1	評議員会選任
理 事	諫 山 正	17. 4. 1	21. 4. 1	同上

理事	宮 沢 稔	20. 4. 1				高等学校長
理事	小 山 明	15. 4. 1	20. 4. 1			評議員会選任
監事	大 掛 幸子	10. 4. 1	18. 4. 1			理事長選任
監事	赤 羽 良 樹	19. 4. 1				同上
監事	藤 田 普	19. 4. 1				同上

監事は、理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て理事長が選任する。

イ. 教職員（学長・校長・園長を含む）（平成21年4月1日現在）

【新潟青陵大学大学院】

学 科	教授	准教授	助教	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	兼任
臨床心理学研究科	6	1	1	-	6	1	9	6	-	-

【新潟青陵大学】

学 科	教授	准教授	助教	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	専任
看護学科	14	10	2	2	20	11	39	20	8	2
福祉心理学科	12	6	1	1	40	3	23	40	9	4
計	26	16	3	3	60	14	62	60	17	6

【新潟青陵大学短期大学部】

学 科	教授	准教授	助教	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	専任
人間総合学科	7	14	-	-	41	-	21	41	9	2
幼児教育学科	4	3	2	1	26	-	10	26	7	1
計	11	17	2	1	67	-	31	67	16	3

【新潟青陵高等学校】

学 科	教諭	助教諭	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	兼任
計	63	-	-	29	-	63	29	9	4

【新潟青陵幼稚園】

学 科	教諭	助教諭	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	専任
計	5	-	2	3	-	7	3	-	-

## 4 事業の概要

### 1) 当該年度の事業(経営)の概要

#### ア、新潟青陵大学

学生納付金収入は、前年度並みの学生数を確保したものの、今年度より経済的に困窮している学生を対象とした学費支援として両学科あわせて19人に対して授業料半額免除825万円を実施したため、前年比で1千55万円の減額決算となった。なお、授業料免除額のうち、321万円を奨学助成引当特定資産からの繰入収入で、304万円を補助金で、残りを一般財源から充当している。入学検定料収入は、厳しい経済環境による実学志向・県内志向を反映して看護学科で受験者が増加し、215万円の増額となった。補助金収入では、新規に大学教育・学生支援推進事業867万円が採択され、短期大学部と按分計上した。これで文部科学省教育改革推進事業費補助金としては3年連続の獲得となった。また、昨年度に引き続き、認定看護師養成の看護職員臨床技能向上推進事業費の県費委託料388万円を決算した。一方、人件費支出は期末勤勉手当支給率見直しにより、前年比で1千407万円の減額決算となった。教育研究経費支出は2年目となる戦略的大学連携支援事業補助金対象経費を引き続き計上したほか、大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)の初期投資である、就職支援システム(714万円)を短期大学部と費用按分し、2億4千392万円を決算した。施設関係支出では、3号館外壁改修工事費3千255万円を短期大学部と費用按分して決算を行った。設備関係支出では、戦略的大学連携支援事業補助金対象経費に加え、会計基準の変更による学生配布ノートPCリースの資産化経費2千828万円を計上した。また、6号館建設で減少した施設拡充引当特定資産を1・2・3号館建て替えのため計画的に積み増しすることとし、1億4千539万円(株式および投資信託で運用)を短期大学部と費用按分して決算した。これらの結果、前受金保有率は、前年度287.74%から一昨年度並みの371.68%回復し、資金繰りは堅調に推移している。消費収支計算では、6号館完成に伴い昨年度に比して基本金組入額が約半減したことに加え、奨学助成引当特定資産及び施設拡充引当特定資産の有価証券運用分において、株価上昇に伴う利益確保のための有価証券売却を行い2億136万円の利益を得、短期大学部と按分計上したことにより、消費支出に充当すべき消費収入は大幅に増額となり、1億8千798万円の収入超過となった。また、人件費率が前年度54.12%から52.50%(有価証券売却差益を除くと56.43%)に改善し、経営の状況は極めて堅調に推移している。

【資金収支】

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
納付金収入	1,236,935	人件費支出	806,280
手数料収入	26,605	教育研究経費支出	243,921
寄付金収入	846	管理経費支出	107,261
補助金収入	234,385	債務保証損失支出	0
資産運用収入	7,955	借入金等利息支出	8,081
資産売却収入	0	借入金等返済支出	58,237
事業収入	7,266	施設関係支出	13,112
雑収入	11,246	設備関係支出	69,914
借入金等収入	0	資産運用支出	81,597
前受金収入	237,905	その他の支出	11,649
その他の収入	17,474	学校法人経費按分額	13,124
資金収入調整勘定	△ 274,525	資金支出調整勘定	△ 36,641
内部取引勘定	0	内部取引勘定	0
前年度繰越支払資金	754,679	次年度繰越支払資金	884,236
計	2,260,771	計	2,260,771

【消費収支】

収入科目	金額	支出科目	金額
納付金	1,236,935	人件費	860,790
手数料	26,605	教育研究経費	338,543
寄付金	1,042	うち、減価償却額	(94,622)
補助金	234,385	管理経費	110,656
資産運用収入	7,955	うち、減価償却額	(3,395)
資産売却差額	114,308	債務保証損失	0
事業収入	7,266	借入金等利息	8,081
雑収入	11,246	資産処分差額	9,504
		徴収不能額	0
帰属収入合計	1,639,742	債務保証損失引当金繰入額	0
基本金組入額合計	△ 111,069	学校法人経費按分額	13,124
計	1,528,673	計	1,340,698

資金収支計算の前受金保有率(前年度)

371.68% (287.74%)

当年度消費収入超過額	187,975
前年度繰越消費収入超過額	△ 326,676
翌年度繰越消費収入超過額	△ 138,701

[注] 補助金収入のうち国庫補助金 234,007 千円、地方公共団体補助金 78 千円、  
学術研究振興資金 300 千円

#### <概説>

学生数の確保も順調に推移し、資金繰りも安定的に推移している。人件費率の上昇傾向に警戒しつつも、引き続き、本学の特色づくりに鋭意努力するとともに経営戦略としてのグランドデザインとグランドデザインに基づく財政計画の立案が必要である。1・2・3号館の耐震改築を目指して、施設拡充引当特定資産の着実な積み増しが重要である。また、将来の改築計画に向けた基本金組入の拘束性のある資金蓄積も引き続き検討を要する課題である。

#### イ、新潟青陵大学短期大学部

学生納付金収入は、幼児教育学科で入学辞退者数が予測を下回ったこともあり、昨年度を大幅に上回る学生数を確保したが、今年度より経済的に困窮している学生を対象とした学費支援として両学科あわせて33人に対して授業料半額免除957万円を実施したため、差し引き前年比で781万円の増額決算となった。なお、授業料免除額のうち、276万円を奨学助成引当特定資産からの繰入収入で、348万円を補助金で、残りを一般財源から充当している。補助金収入では、新規に大学教育・学生支援推進事業867万円が採択され、大学と按分計上した。一方、人件費支出にあっては、昨年同様多年に亘り勤務した教職員の退職金等の支出があったものの期末勤勉手当支給率見直しにより対前年比で2千280万円の減額決算となった。教育研究経費支出は大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）の初期投資である、就職支援システム（714万円）を大学と費用按分し、1億1千67万円で決算した。施設関係支出では、3号館外壁改修工事費3千255万円を大学と費用按分して決算を行った。設備関係支出では、会計基準の変更による学生配布ノートPCリースの資産化経費4千912万円を計上した。

また、6号館建設で減少した施設拡充引当特定資産を1・2・3号館建て替えのため計画的に積み増しすることとし、1億4千539万円（株式および投資信託で運用）を大学と費用按分して決算した。これらの結果、前受金保有率は、前年度154.14%から163.80%に改善し、資金繰りは堅調に推移している。因みに内部取引勘定の高校への貸付額の累計は3億5千106万円、幼稚園への貸付額の累計額は4千884万円で決算している。

消費収支計算では、6号館完成に伴い昨年度に比して基本金組入額が約半減したことに加え、奨学助成引当特定資産及び施設拡充引当特定資産の有価証券運用分において、株価上昇に伴う利益確保のための有価証券売却を行い2億136万円の利益を得、大学と按分計上したことにより、消費支出に充当すべき消費収入は大幅に増額となり、1億9千430万円の収入超過となった。また、人件費率が前年度58.39%から47.91%（有価証券売却差益を除くと52.93%）に改善し、経営の状況は極めて堅調に推移している。

## 【資金収支】

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
納付金収入	782,429	人件費支出	517,180
手数料収入	16,664	教育研究経費支出	110,679
寄付金収入	3,298	管理経費支出	66,651
補助金収入	95,407	債務保証損失支出	0
資産運用収入	12,669	借入金等利息支出	7,648
資産売却収入	0	借入金等返済支出	54,013
事業収入	200	施設関係支出	11,249
雑収入	24,741	設備関係支出	73,707
借入金等収入	0	資産運用支出	75,702
前受金収入	264,130	その他の支出	11,298
その他の収入	61,221	学校法人経費按分額	6,881
資金収入調整勘定	△ 315,845	資金支出調整勘定	△ 40,782
内部取引勘定	332,051	内部取引勘定	399,908
前年度繰越支払資金	449,814	次年度繰越支払資金	432,645
計	1,726,779	計	1,726,779

## 【消費収支】

収入科目	金額	支出科目	金額
納付金	782,429	人件費	495,200
手数料	16,664	教育研究経費	163,216
寄付金	3,393	うち、減価償却額	(52,537)
補助金	95,407	管理経費	71,952
資産運用収入	12,669	うち、減価償却額	(5,301)
資産売却差額	98,067	債務保証損失	0
事業収入	200	借入金等利息	7,648
雑収入	24,741	資産処分差額	11,201
		徴収不能額	0
帰属収入合計	1,033,570	債務保証損失引当金繰入額	0
基本金組入額合計	△ 83,168	学校法人経費按分額	6,881
計	950,402	計	756,098
		当年度消費収入超過額	194,304
資金収支計算の前受金保有率(前年度)		前年度繰越消費収入超過額	326,057
163.80%(154.14%)		翌年度繰越消費収入超過額	520,361

[注] 補助金収入のうち国庫補助金 93,935 千円、地方公共団体補助金 1,472 千円

#### <概説>

学生数確保および資金繰り何れも堅調である。大学同様に人件費率の上昇傾向に警戒しつつも、引き続き、本学の特色づくりに鋭意努力するとともに経営戦略としてのグランドデザインとグランドデザインに基づく財政計画の立案が必要である。

1・2・3号館の耐震改築を目指して、施設拡充引当特定資産の着実な積み増しが重要である。また、将来の改築計画に向けた基本金組入の拘束性のある資金蓄積も引き続き検討を要する課題である。

#### ウ、新潟青陵高等学校

スクールバス運行等の改善努力により、生徒数は入学定員を確保でき、生徒納付金収入が、対前年比で1千800万円の増額、補助金収入も425万円の増額決算となった。しかしながら、特別進学コース及び平成22年度新設の高大一貫コースは、入試の学力レベルを大幅に高くしたことに加えて初年度の様子見の感もあり定員を満たすことができず、収容定員を51人割りこんだ。結果、前受金収入は前年比895万円の減額となり、意欲ある生徒の確保はできたとはいえ、財政的には平成23年度中学校卒業生の大幅減も含めて、来年度以降、再び厳しい歳入状況となる見込みである。而も、納付金収入と補助金収入の大部分が人件費支出に費消されるという現実は依然として変わりはない。一方、人件費は、期末勤勉手当支給率見直しによりわずかながら減少したものの、多年に亘り勤務した教職員の退職金等により、6千618万円の増額決算となった。教育研究経費支出は、積極的な生徒への還元ができない状況下で1千744万円の減額となったが、管理経費支出は高大一貫コース広告料及びスクールバス運行見直し等により1千159万円の増額決算となり、決算内容の厳しい状況は続く。

平成16会計年度から始まった内部取引勘定（短期大学からの内部借入金）の累計額も今期末で3億5千64万円（対前年比7千182万円増）となった。前受金収入5千536万円の費消を加えると4億624万円の資金不足を意味する。また、消費収支計算での消費収支差額（赤字）が3千381万円となって慢性的な消費収支不均衡の状況から脱却できないでいる。累積赤字も1.9億円を超え、依然として高校財務の経営状況は悪化の一途を辿っている。

## 【資金収支】

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
納付金収入	384,371	人件費支出	758,240
手数料収入	16,315	教育研究経費支出	73,235
寄付金収入	2,645	管理経費支出	39,466
補助金収入	400,902	債務保証損失支出	0
資産運用収入	70	借入金等利息支出	1,920
資産売却収入	0	借入金等返済支出	11,440
事業収入	7,174	施設関係支出	0
雑収入	103,728	設備関係支出	5,024
借入金等収入	0	資産運用支出	318
前受金収入	55,360	その他の支出	3,727
その他の収入	34,065	学校法人経費按分額	8,246
資金収入調整勘定	△ 173,512	資金支出調整勘定	△ 1,939
内部取引勘定	351,064	内部取引勘定	281,616
前年度繰越支払資金	3,053	次年度繰越支払資金	3,942
計	1,185,235	計	1,185,235

## 【消費収支】

収入科目	金額	支出科目	金額
納付金	384,371	人件費	758,240
手数料	16,315	教育研究経費	129,029
寄付金	2,645	うち、減価償却額	(55,794)
補助金	400,902	管理経費	40,489
資産運用収入	70	うち、減価償却額	(1,022)
資産売却差額	0	債務保証損失	0
事業収入	7,107	借入金等利息	1,920
雑収入	103,728	資産処分差額	612
		徴収不能額	0
帰属収入合計	915,138	債務保証損失引当金繰入額	0
基本金組入額合計	△ 10,415	学校法人経費按分額	8,246
計	904,723	計	938,536
		当年度消費収入超過額	△ 33,813
資金収支計算の前受金保有率（前年度）		前年度繰越消費収入超過額	△1,895,290
7.12%（4.75%）		翌年度繰越消費収入超過額	△1,929,103

[注] 補助金収入のうち地方公共団体補助金 400,902 千円

<概説>

過去10数年間にわたって教員の新陳代謝を促進してきたわりに人件費比率の改善がはかばかしくない。改善の方策は、高校教育の魅力度を高めることによって得られる収容定員の確保と人件費の政策的抑制に尽きると言えるが、そのためには、抜本的な改革も真剣に検討していく必要があるのではないか。いずれにしても、高校発展の基礎財源（本来、積み立てていなければならない減価償却引当特定預金等が皆無の状態にある。）を費消している現下の状況から脱却する必要がある。

参考までに内部取引勘定と前受金費消額の推移を以下に示す。

	内部取引勘定	前受金	
17会計年度末	63,877千円	+ 56,480千円	= 120,357千円 (48,506千円)
18会計年度末	158,650千円	+ 63,680千円	= 222,330千円 (94,773千円)
19会計年度末	227,559千円	+ 61,280千円	= 288,839千円 (68,909千円)
20会計年度末	281,616千円	+ 64,320千円	= 345,936千円 (54,057千円)
21会計年度末	351,064千円	+ 55,360千円	= 406,424千円 (71,182千円)

括弧内は、単年度相当額

また、消費収支計算での消費収支差額（赤字）は3千381万円となって消費収支差益率（消費収支差額／消費収入）ではマイナス3.74%となった。

エ、新潟青陵幼稚園

園児数は前年度に引き続き定員をやや下回ったが、平成22年度は、定員を充足することができたため、前受金収入がやや増加した。また、補助金収入では、緊急環境整備事業を対象とした新潟県安心子ども基金補助事業費補助金49万円を収納した。一方、人件費支出は、幼稚園の職員が経営改善のため、自ら給与体系の見直しを申し出たこともあり、退職金を除く前年比で298万円の支出減となった。また、設備関係支出では先の補助金に係る園庭遊具を支出した。この結果、内部取引勘定は、やや改善することとなった。

なお、消費収支計算での消費収支差額（赤字）は421万円となって消費収支差益率（消費収支差額／消費収入）は前年度のマイナス11.22%からマイナス5.81%へと改善した。

【資金収支】

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
納付金収入	43,424	人件費支出	49,990
手数料収入	142	教育研究経費支出	10,920
寄付金収入	0	管理経費支出	12,674
補助金収入	27,732	債務保証損失支出	0
資産運用収入	370	借入金等利息支出	0
資産売却収入	0	借入金等返済支出	0
事業収入	1,327	施設関係支出	0
雑収入	228	設備関係支出	1,685
借入金等収入	0	資産運用支出	0
前受金収入	2,320	その他の支出	984
その他の収入	5,420	学校法人経費按分額	784
資金収入調整勘定	△ 3,319	資金支出調整勘定	△ 985
内部取引勘定	48,843	内部取引勘定	50,435
前年度繰越支払資金	100	次年度繰越支払資金	100
計	126,587	計	126,587

【消費収支】

収入科目	金額	支出科目	金額
納付金	43,424	人件費	49,990
手数料	142	教育研究経費	12,797
寄付金	420	うち、減価償却額	( 1,876 )
補助金	27,732	管理経費	12,938
資産運用収入	370	うち、減価償却額	( 264 )
資産売却差額	0	債務保証損失	0
事業収入	1,327	借入金等利息	0
雑収入	228	資産処分差額	70
帰属収入合計	73,643	徴収不能額	0
基本金組入額合計	△ 1,271	債務保証損失引当金繰入額	0
計	72,372	学校法人経費按分額	784
		計	76,579
		当年度消費収入超過額	△ 4,207
資金収支計算の前受金保有率 (前年度)		前年度繰越消費収入超過額	△ 329,466
4.31% (5.63%)		翌年度繰越消費収入超過額	△ 333,673

[注] 補助金収入のうち地方公共団体補助金 27,732 千円

<概説>

資金収支計算、消費収支計算何れも例年の構造に大きな変化はないが、確実な定員確保と自己の経営改善努力により、やや改善の兆しが見えてきた。

参考までに内部取引勘定と前受金費消額の推移を以下に示す。

19会計年度末 38,424千円 + 2,220千円 = 40,644千円  
( 9,768千円)

20会計年度末 50,436千円 + 1,775千円 = 52,211千円  
( 12,012千円)

21会計年度末 48,843千円 + 2,320千円 = 51,143千円  
(△1,593千円)

括弧内は、単年度相当額

2) 当該年度の主な事業の目的・計画

ア、新潟青陵大学

本学は、本学の教育理念である「生命尊重・人間尊重の理念に基づき、国民の福祉と健康を支え、全人的な視点からこれを保障するという社会の要請に応えるとともに、クオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上を実現すべく、看護学科と福祉心理学科の連携のもとに教育・研究を行い、医療福祉面での地域社会に貢献できる人材の養成」という実学教育の実現を目指している。

看護学科では、「①人間・生命の尊厳を守る意識を培い、自己の資質の向上に努める能力を養う。②他者を尊重し、自己をも尊重する建設的な人間関係を形成する能力を養う。③看護に必要な知識・技術を学習することによって、よりよい看護実践ができる基礎的能力を養う。④看護の諸現象について、論理的な思考のもとに、適切な情報の収集、科学的な分析、理論的な判断を用いて、有効な対応を考察できる能力を養う。⑤専門的知識・技術を用いて、科学的な根拠に基づく安全・安楽な援助を提供できる能力を養う。⑥社会における看護が担うべき役割を認識し、保健医療福祉領域の専門職および地域の人々との協力・連携のもとに、看護の発展に寄与する能力を養う。⑦国際的な視野をもち、創造的な思考を深め、専門職業人として社会に貢献できる能力を養う。」という教育目標を掲げている。また、看護学科では看護師と保健師の一貫養成を行い、希望者には助産師もしくは養護教諭一種免許状を取得できるプログラムを用意している。

福祉心理学科では、「①人間の命と尊厳を守る力を育てる。②人間を支えるための土台を識（し）る。③人間を見つめ、社会との関連を考える。④人間や地域と関わっていく精神を学ぶ」という教育目標を掲げている。また、本格的な少子・高齢社会の進展に対応するため、保健、福祉、心理、医療に関する幅広い視点を兼ね備えた社会福祉士、精神保健福祉士、認定心理士の養成の他、介護福祉士、保育士、カウンセリング実務士、高等学校福祉科、公民科の教員養成のプログラムを用意している。

大学院臨床心理学研究科では、臨床心理学に対する精深な学識を基に、広い視野をもって心理臨床の場に臨める、「心の専門家としての高度専門的職業人」「地域や文化に職務を通して貢献できる高度専門職業人」「実践的で有効な援助が可能な

技術と人格を備えた高度専門的職業人」の育成を目指している。さらに、大学院に研究生制度を置くことにより、高度専門的職業人としての卒業教育が可能となり、研究会や自主ゼミが活発に行われている。なお、日本臨床心理士資格認定協会による第一種指定大学院の必備の施設である新潟青陵大学大学院臨床心理センターは、院生の実習施設であり、市民からの心の相談に応じている。

#### イ、新潟青陵大学短期大学部

本学は、人間総合学科と幼児教育学科を擁し、地域と時代のニーズに応えられる人材育成を目標に掲げている。学生には社会人として自立する基盤となる専門的な知識、技能の取得を積極的に促し、社会人にはスキルアップのための生涯学習の場として価値ある情報を提供することを目指している。

人間総合学科人間総合コースは、学生の興味・関心・取得希望資格等に応じた多様な履修形態を可能にしたことを特色としている。幅広く学べる自由と目的別に集中して体系的に学ぶことを同時に満足させるために、きめ細かな履修指導を最重要課題にしている。認定資格である衣料管理士、ビジネス実務士、フードスペシャリスト等々、および、検定試験に向けての対策授業を通して、カラーコーディネータ、医療事務、簿記、秘書検定、国内旅行業務取扱管理者等々の資格取得を目指すとともに、多様な職業に必要な知識と技能を授け、幅広い分野において活躍できる人材の育成を目的としている。また人間総合学科介護福祉コースは、介護に関する知識と技術の習得を目的とした厚生労働省が指定する介護福祉士養成施設であって、あたたかい心を持った「介護のスペシャリスト」の育成に努めている。また、両コースとも社会人として必要な基礎的教養、マナー、コミュニケーション能力を身に付けた人材の育成という見地から、「基礎ゼミ」、「社会生活とマナー」、「キャリアサポート」等々の授業を核にして指導している。

幼児教育学科は、幼稚園教諭と保育士の養成を目的にしている。教育基本法と児童福祉法の理念に基づき、将来を担う子どもの保育と教育の向上を目指して、ひとり一人の子どもの最善の利益のために努力し、自らを成長させる人間性豊かな保育者を育成することを教育理念に掲げ、学科の全教員の共通理解の下で学生をきめ細かく指導する体制をとっている。また、学科が目指す質の高い保育者養成が、保育現場からの支持と高い評価を得られるよう努めている。さらに、社会人としてのマナー指導も徹底して行うことにしている。

#### ウ、新潟青陵高等学校

本校においては、校訓である「至誠」の精神をもとに、自信と自覚を持って生きる志の高い生徒を育成するとともに、生徒・保護者のニーズに応え、大学進学をはじめとする進路希望の実現に努める。

##### (1) 定員の確保

通学不便な地域にスクールバスを運行し定員確保に努めることとし、昨年10月から中学生及び保護者へのPRを兼ねて試行運転を実施してきたが、今年度から本格実施する。また、来年度、高校・大学・短期大学部がそろっている学園の特色を生かした高大一貫コースを新設して、目的意識の明確な生徒の入

学を促進し、学校の活性化を目指すとともに定員確保に資することとしている。

今年度から、校内組織として外部への情報発信を担当する情報図書部を新設し、ホームページの充実や広報誌の発行などを行うこととしているが、高大一貫コースについても、入試広報と連携して、中学 3 年生とその保護者、中学校関係者、塾等に積極的に広報していく。さらに、入学した生徒の転退学防止のため、昨年 10 月から新潟青陵大学大学院の協力を得てスクールカウンセラーを増員し、教育相談態勢の強化を図ってきたが、今年度も続ける。

## (2) 充実した高校生活の創造

本校は来年創立 110 周年を迎えるが、その準備を進めるとともに、機会を捉えて生徒に本校の伝統や歴史について話し、本校の生徒としての自信や自覚を深めるように努めたい。また、制服を改定するとともに、昨年 10 月から実施しているスカート、ズボン等の正しい着用指導を継続する。学習については、日常の授業の他に、英語検定、漢字検定、漢字テスト、計算力テストなども積極的に実施し、基礎学力向上に努める。また、部活動の活性化に努め、1 年生全員の部活動への参加を目標とし、併せて部や同好会の新設についても検討していく。

## (3) 希望する進路の実現

校内での進路講演会を積極的に実施するとともに、大学・短大等の実施するオープンキャンパスへの参加を奨励して視野を広げるよう指導していく。また、今年度の 2 年生は総合進学コース 9 クラスのうち大学進学を希望する生徒を対象とするⅡ類が 5 クラスとなったが、特別進学コース 1 クラスとともに、合格を目指し実力養成に努めていく。さらに、進学、就職指導に当たっては、4 月に生徒全員との進路相談週間を、6 月には保護者全員との個別懇談会を、11 月には生徒・保護者との進路相談週間（三者面談）を実施するなどして、生徒・保護者のニーズに応えるきめ細かい指導を心がけていく。

## (4) 保護者との連携

5 月に実施する P T A 総会の内容を検討し、授業公開や学年会、学級懇談会等を設定し、教員と保護者、保護者同士の交流ができるよう努める。また、学級担任と保護者との懇談の機会を確保し、生徒の生活や学習について相談できるようにするため、(3) に書いたように、6 月、11 月にも保護者との懇談の機会をもつこととしている。

## (5) 教職員の研修

校内においては、11 月に授業公開週間を設定するなどして、お互いに授業を見せ合い、授業研究に努める。また、他校を訪問しての研修や、行政で実施する研修等に参加する機会を増やし、教職員の資質向上を図る。特に、7 月に開催される第 48 回東北地区私学教育研修会にはできるだけ多くの教員を派遣し、他県、他校との交流や研修を深める。さらに、教職員・生徒・保護者の三者による学校評価を実施し、その結果の活用に努めることとしている。

## エ、新潟青陵幼稚園

シュタイナー教育が目指す、「真に思考力のある自立した人間」となるために、幼児期にはその基礎となる意志、感性、感情を育てることが求められている。本年度の教育目標は、意志のもととなる『意欲を持って生活する子ども』とし、この実現のため、次の4つの子どもの姿を目指し取り組む。

### ① 「じっくりと物事に取り組む子ども」

静と動のバランスの取れた一定した生活リズムにおいて、子どもの情緒の安定をはかり、自立の基礎となる基本的な生活習慣を身につける。また、子ども自身が持っている想像力を発揮できるように自然素材の教材や環境を構成し、自ら遊びを創造する力を育てる。

### ② 「友だちとよく遊ぶ子ども」

近年、人との関わりが苦手な青少年が増えている現状を踏まえ、人間関係の発達に重点をおく。遊びを楽しむ過程において友だちと積極的にかかわり、自分の考えを話し、友達の考えを聞こうとし、友だちと折り合いをつけるために話し合うことができる子どもを育てる。また、集団生活におけるルールを守ることによって、お互いが気持ちよく生活することができることに気づかせ、ルールを守ろうとする態度を養う。

### ③ 「思いやりのあるやさしい子ども」

子どもどうしの気持ちを保育者が伝える役割を果たし、子どもがお互いの気持ちを知り、助けようとする気持ちを育てる。園周辺の自然環境を利用し、自然に親しみ興味関心を持ち自然の変化や美しさに感動する豊かな感性を育む。

### ④ 「よく考え判断し行動する子ども」

やりたい気持ちを実現することができる環境を作り、子どもが満足感を味わうことができる経験を積み重ねることができるようにし、目的を持って物事に取り組み考え工夫する力を育てる。

## 3) 当該計画の進捗状況等

### ア、新潟青陵大学

#### <看護福祉心理学部>

本学は看護福祉心理学部に看護学科及び福祉心理学科を置き、統合し、専門職としての看護職及び社会福祉従事者の養成を目的としている。いわば、福祉に強い看護職、看護に強い社会福祉従事者を育成する学部構成を特色にしている。看護並びに福祉心理の両学科専攻生が体系的に共通に学ぶ教養基礎科目と学部共通の専門基礎科目とそれぞれの学科の専門科目或いは臨地実習、卒業研究などの体系的な学習を通して所要の成果を目指して鋭意努力を重ねてきた。

その成果の一つである国家試験或いは就職状況を次に列記する。

国家試験において看護学科では、看護師に78人、保健師に67人、助産師に15人が合格した。合格率は、看護師96.3%（昨年100%）、保健師75.3%（昨年98.9%）、助産師の合格率は88.2%（昨年100%）となった。なお、看護師と保健師は大学新卒の全国平均97.9%（看護師）、87.7%（保健師）を下回った。助産師の大学新卒の全国平均80.9%より上回った。低成績

の学生が、看護師と保健師国家試験対策の両立が困難であったことが原因であった。今後は、自主性を重んじながらも並行してアドバイザー教員による学生個々の保健師国家試験対策の進捗状況を確認しながら支援する対策と、卒業試験に準じた看護の総合演習の新規導入により、大学新卒の全国平を上回る合格率を目指す。

一方、福祉心理学科では、既卒者を含めて社会福祉士に38人、精神保健福祉士に21人が合格した。新卒者の合格率は、社会福祉士32.6%（昨年39.1%）、精神保健福祉士76.9%（昨年75.0%）であり、合格率としては大きな変化はないが、精神保健福祉士合格者数20名（前年度12名）社会福祉士・精神保健福祉士同時合格者数15名（前年度10名）と大きく数字を伸ばした。学内外の講師による国試対策指導の効果を反映したものと考えられる。他方、既卒者に関しては葉書や本学HPを通じて模擬試験や国試対策講座への参加を呼びかけたもののそれほど反応がなく、結果として合格率を上昇させるには至っていない。引き続き、資格取得を目指す全ての学生がただ漫然と受験することのないように、国家試験対策を視野におさめた授業や演習等を開講するとともに学生の進路に関する相談等をきめ細かく行い、資格取得が必須である学生を中心に、学力の低い学生も含めてきちんとした対策を実行、卒業生への支援も視野に入れて、合格率の向上を目指している。

就職の状況は、次のとおりである。

#### 【職業紹介状況】

項目	看護学科			福祉心理学科			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
就職希望者数	9	76	85	25	92	117	34	168	202
就職決定者数	9	76	85	23	85	108	32	161	193
就職率 (%)	100.0	100.0	100.0	92.0	92.4	92.3	94.1	95.8	95.5

#### 【看護学科】

	看護師	保健師	助産師	養護教諭	その他	計
県内	41	5	6	3	-	55
県外	18	2	9	1	-	30
計	59	7	15	4	-	85

#### 【福祉心理学科】

	生活相談員	生活支援員	介護職	PSW	MSW	保育士	心理・児童他	一般企業等	計
県内	7	11	25	5	1	15	4	31	99
県外	-	1	2	1	-	1	-	4	9
計	7	12	27	6	1	16	4	35	108

<概説>

就職率は95.5%（前年97.6%）となった。就職先の内訳で見ると看護学科は、看護師69.4%、保健師8.2%、助産師17.7%、養護教諭4.7%の割合である。また、福祉心理学科は、福祉関係職種67.6%、一般企業等32.

4%の割合である。福祉職から一業企業等に就職を希望する学生が近年多くなってきている。しかし、2008年に起こった世界金融危機による景気悪化により雇用情勢は悪化し、一般企業から内定を獲得することが厳しい状況となってきている。21年度も一般企業を希望する学生は多くいたが、最終的な一般企業への就職割合は、前年度よりマイナス10.9ポイントと大幅に減少した。今後も一般企業志向は強く、就職活動の時期は、福祉職とは違って早いため、早期から進路に対する明確化、動機付けをし、サポート体制を強化して対応して行く必要がある。

なお、就職状況の中で就職を希望する学生の即戦力化が求められる一方で、経済のグローバル化や厳しい経済状況により正規雇用が減少しつつある。加えて労働条件面により優秀な人材が福祉職から一般企業に徐々に移動しており、福祉関係の雇用環境の改善の声もあるが、暫くは今までの状況が続くと見られる。また、福祉の職場では、就職者を育てながら職場の理念の実現を図ってきたことを考えると、パートや非常勤雇用の中で研修や教育が十分行われるのか、利用者支援のプロを育てる立場から考えると、雇用のあり方について養成校としても意見を述べ、改善を求めて行く必要がある。

#### <大学院臨床心理学研究科>

本学大学院にあっては、専任教員による教育に限らず、地域で活躍している臨床心理士からの講義・実習指導や大学院附属施設である臨床心理センターで市民の相談活動（教員の指導を受けながら）を行うなど、地域に根ざした実践活動ができる心の専門家を目指して鋭意努力を重ねてきた。

なお、昨年度より整備された研究生制度を利用した者は、平成21年度は修了生9人中3人及び他大学院臨床心理学専攻出身者1人の計4人であり、卒後教育と資格試験対策に生かされている。また、財団法人日本臨床心理士資格認定協会による臨床心理士合格率（平成21年度）は64%（前年度不合格者の再受験含む）であり、残念ながら昨年度よりは低下したものの、全国平均63%を上回る成績であった。

次に今年度修了生の就職状況は、精神科病院常勤2人、福祉職常勤1人、県及び市など公的機関の非常勤職3人、心理相談センター受付業務2人、後期博士課程入学1人で、3人が常勤職を得ており、就職が困難な時期においても好調な就職先の確保ができた。

#### イ、新潟青陵大学短期大学部

人間総合学科は、多岐にわたる職業専門教育を可能とする人間総合コースと介護福祉士資格を取得できる介護福祉コースを擁し、いずれも職業教育、専門教育に重点を置きながらも、これまで短期大学が行ってきた教養型教育を生かし、知的に柔軟な職業人養成を目指している。1年次の早い段階から、自らの興味や関心、能力・適性を希望する職業に結びつけて科目履修ができるような配慮がなされ、学生の勉学へのモチベーションを高めている。また、煩雑化する履修指導、学生指導、および進路支援などについては、アドバイザー制、教学支援システム（N-COMPASS）などを活用して学生へのモニタリング（観察）を行い、必要に応じて適切なカウン

セリング（相談）、メンタリング（指導）を実施する体制を整えている。これらの成果は、近年の就職および進学実績の向上に現れている。

幼児教育学科にあっては人間性豊かな保育者を養成することの教育理念の下に「①生命に対する畏敬の念を持ち、広い視野と慈しみの心で、人間及び子どもの本質を理解できる能力を養う。②さまざまなものに共感する心、それを表現する力を養うことにより、豊かな感性と創造性を育む。③保育や子育てを取り巻く現実を直視し、主体的かつ創造的に保育を実践できる能力を養う。」という教育目標を掲げて様々な取り組みと実践を行った。この成果は、県内の関連施設にこまなく卒業生を送り出し、例年、100%近い就職率を維持している実績に反映されていると言えよう。

就職の状況は、次のとおりである。

#### 【職業紹介状況】

項目	人間総合学科			幼児教育学科			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
就職希望者数	5	201	206	5	114	119	10	315	325
就職決定者数	5	183	188	5	114	119	10	297	307
就職率 (%)	100.0	91.0	91.3	100.0	100.0	100.0	100.0	94.3	94.5

#### <概説>

本学では、学生に対して、キャリア教育の観点から、入学時より進路・就職支援関連のカリキュラムを複数用意し、更に適宜就職活動をサポートする各種事業を実施することで、就業意識の向上と職業理解、就職活動への積極的な取り組みを促した。また、保護者を対象とした進路・就職をテーマとした懇談会、学生と教員および就職課スタッフとの複数回にわたるカウンセリング機能を強化した個人面談、県内主要企業人事関係者を外部特設会場に一同に集めた本学合同企業説明会などを実施し、家庭・学生・大学・企業間の関係を密にしながら、最新の就職に関する情報を共有することで、急激な景気下降局面において過去の就職氷河期並みに厳しさを増した就職活動を全面的に支援した。

#### ウ、新潟青陵高等学校

平成21年度新入生401人を迎えてスタートし、入学式早々、高校生活の基本的な事項を学ぶことを目的としたオリエンテーション合宿を実施した。生徒の一日は始業前の朝学習から始まる。1年生は国語、数学、英語の基本的な問題を解くこと、2・3年生は国語・数学・英語の他、地歴公民、修学旅行の事前学習などに取り組む。

普通科特別進学コースは7限終了後、平日講座を受講する。月・火・木・金の4日間（16：40～15：10）、国語・数学・英語・理科・地歴公民へのより深い理解を求めて実施した。土曜日は土曜講座、サテライン講座で学力の向上、模擬試験対策に取り組む。夏期休業中には3泊4日の勉強合宿を実施し、すがすがしい環境のもとに勉学に励む。

普通科総合進学コース、生活服飾科では教科指導の他に小論文指導、平日講座、受験講座を実施。生活服飾科は青松祭(文化祭)に向けてファッションショーの作品製作に取り組んだ。また、全国家庭科技術検定試験和服・洋服・食物1級合格者(3冠王)が3人と成果を上げた。

部活動においては、卓球、バドミントン、弓道、フェンシング、水泳の各部がインターハイに出場した。さらに、バドミントン部と水泳部は国民体育大会(トキメキ新潟国体)に出場を果たした。

進路の状況は、次のとおりである。

**【卒業生進路状況】**

科	進路先	進 学					就 職	その他	計
		大 学	短 大	医 療 系 専 門	専 修 各 種	公 職 能 力 検 定			
普通	男	27	8	3	34	1	6	17	96
	女	42	44	11	52	-	22	32	203
	計	69	52	14	86	1	28	24	299
生活服飾		2	3	-	9	-	2	5	21
計		71	55	14	95	1	30	54	320

<概説>

大学・短期大学への合格状況は、次のとおりである。

(合格大学)

**【普通科総合進学コース】**

新潟大学(教育)、新潟青陵大学(看護2人、福祉心理6)、新潟医療福祉大学8、新潟国際情報大学8、新潟薬科大学、新潟リハビリテーション大学、敬和学園大学4、新潟経営大学2、新潟工科大学2、早稲田大学2、東海大学、玉川大学2、実践女子大学2、城西大学、大東文化大学、千葉工業大学、ものづくり大学、跡見学園女子大学、明海大学、麗澤大学、駿河台大学3、東洋学園大学、駒沢女子大学、松陰大学、山梨学院大学、金沢工業大学、同朋大学、関西福祉大学

**【普通科特別進学コース】**

新潟大学(工)、新潟県立大学(国際地域)、新潟青陵大学(看護)、新潟国際情報大学2、新潟薬科大学、新潟経営大学、東洋大学、駒澤大学、国士舘大学、昭和女子大学、北里大学、帝京大学、和洋女子大学、神奈川大学

**【生活服飾科】**

新潟医療福祉大学、杉野服飾大学

(合格短期大学)

**【普通科総合進学コース】**

新潟青陵大学短期大学部(人間総合20、幼児教育9)、日本歯科大学新潟短期大学、明倫短期大学、新潟中央短期大学、新潟工業短期大学7、大妻女子大学短期大学部、共立女子短期大学、高崎健康福祉大学短期大学部、帝京平成短期大学、武蔵丘短期大学、大谷大学短期大学部

#### 【普通科特別進学コース】

山形県立米沢女子短期大学、新潟青陵大学短期大学部（人間総合、幼児教育3）、大妻女子大学短期大学部、鎌倉女子大学短期大学部

#### 【生活服飾科】

新潟青陵大学短期大学部（人間総合2）、埼玉女子短大

平成21年度の進学率（大学・短期大学）は、39.4%となった。（普通科は40.5%）大学の教員による模擬授業、進路講演会、進路説明会等の指導を行い生徒の進路意識を高めてきたが、専門学校を選択する生徒が増加した結果、全体の進学率は昨年の50.7%から大幅に減少してしまった。安易に専門学校を選択させないようするため、基礎学力の向上が今後の課題である。

また、推薦入試による合格者が依然として多いので、一般入試で合格させることも今後の課題であるが、その中において、特進コースの新潟県立大学一般入試での合格は明るい材料であった。

就職は経済状況の低迷が続く中で一層厳しさを増し、就職希望を変更せざるを得ない生徒も出るなど、残念な結果となった。

#### エ、新潟青陵幼稚園

本年度の事業計画を実現するために 教員の研究主題を『保育者のプロとしての言葉』として研修を行い、幼稚園教諭としての免許を持っている意味を問い直し、プロとしての保育者の言葉、姿勢等について考えた。子どもは環境のすべてを吸収して成長するため、環境の中で一番重要な『保育者の存在』が問題になる。保育者が子どもに与える影響の大きさ重要性を学び、保育者自らのあり方を問い続けつつ保育に臨んだ。

本年度の教育目標『意欲を持って生活するこども』を達成するために、子どもを主体とする保育を、以下の保育者の姿勢をもって取り組んできた。

1. 保育者が、子ども一人ひとりの個性を認めあるがままの姿を受け入れる。
2. 保育者が、子どもの遊びを尊重しそれぞれの遊びの意味を理解する。
3. 子どもの意思を受け止め、実現できるように援助する。
4. 子どもの発達や特徴を踏まえ、子どもが自らの能力を十分に発揮することができるように、日々の保育を計画する。

#### 本年度の子どもの姿

子どもたちは、自分の思いを受け止められ、自信を持ってやりたいことを実現しようとする姿が見られた。安定した心の状態は自分のやりたい遊びに自ら取り組むために重要な基礎となった。

特に友だち関係においては、表面的ではなく心の深いところにつながりを持った成長がみられる。人とつながろうとする力、友だちとともにあることを楽しむ力が育った。

各学年の人間関係の発達の様子

- ・年少児 言葉の発達が十分ではないため、身体的な攻撃をするトラブルが多いが、保育者が子どもの思いを言葉にして伝えることを続けてきたところ、身体的な攻撃が減少し、友だちを知ることができ、心のつながりができてきた。
- ・年中児 友だちへ伝えるべき言葉を保育者に補ってもらいながらであるが、自分の言葉で相手に伝えようとするができるようになってきた。
- ・年長児 自分の思いを言葉で表現して相手に伝えることができるようになり、話し合いによってトラブルを乗り越えようとする姿が見られた。

子どもは想像の世界と現実の世界を行き来しながら次第に現実の世界へ移行していくという幼児期独特の特徴があるが、現代は、幼児期が空洞化する現実があり、想像の世界が苦手な子どもが増えている。しかし、自然はそういった現代の子どもたちにとってよい解毒剤となり、子どもの心を解放し想像の世界を体験できるように変えてくれる。自然豊かな本園の環境は、子どもの健全な成長発達に大きく寄与していることが子どもの変化からよく分かる。この貴重な自然環境を生かし、保育者という人的環境の資質を上げ、本園の教育効果をさらに向上させたいと考えている。

## 5 財務の概要

### 1) 平成21年度決算額

資金収支計算書（資金繰り表）

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
学生生徒等納付金収入	2,447,159	人件費支出	2,151,182
手数料収入	59,726	教育研究経費支出	438,755
寄付金収入	6,789	管理経費支出	235,597
補助金収入	758,426	債務保証損失支出	0
資産運用収入	21,064	借入金等利息支出	17,648
事業収入	15,967	借入金等返済支出	123,690
雑収入	139,943	施設関係支出	24,360
借入金等収入	0	設備関係支出	150,330
前受金収入	559,715	資産運用支出	157,617
その他の収入	118,180	その他の支出	27,658
資金収入調整勘定	△ 767,202	資金支出調整勘定	△ 80,348
前年度繰越支払資金	1,207,646	次年度繰越支払資金	1,320,924
収入の部合計	4,567,413	支出の部合計	4,567,413

消費収支（損益）計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
学生生徒等納付金	2,447,159	人件費	2,183,711
手数料	59,726	教育研究経費	643,585
寄付金	7,500	管理経費	245,579
補助金	758,426	債務保証損失	0
資産運用収入	21,064	借入金等利息	17,649
資産売却差額	212,375	資産処分差額	21,387
事業収入	15,900	徴収不能額	0
雑収入	139,943	債務保証損失引当金繰入額	0
		消費支出の部合計	3,111,911
帰属収入合計	3,662,093	当年度消費収入超過額	344,260
基本金組入額合計	△ 205,922	前年度繰越消費収入超過額	△2,225,375
消費収入の部合計	3,456,171	翌年度繰越消費収入超過額	△1,881,115

貸借対照表

平成22年3月31日

単位 千円

科目	金額	科目	金額
固定資産	8,445,216	固定負債	950,724
有形固定資産	7,067,691	長期借入金	532,880
土地	1,531,188	退職給与引当金	376,799
		長期未払金	38,695
建物	4,185,361	債務保証損失引当金	2,350
構築物	70,655	流動負債	772,774
教具校具及び図書	1,280,487	短期借入金	122,470
その他の固定資産	1,377,525	未払金	42,293
流動資産	1,516,762	前受金	559,715
現金預金	1,320,923	預り金	48,296
預り資産	39,956	負債の部合計	1,723,498
未収入金	147,012	基本金	10,119,595
販売用品	302	基本金の部合計	10,119,595
立替金	8,463	翌年度繰越消費収入超過額	△1,881,115
前払金	106	消費収支差額の部合計	△1,881,115
資産の部合計	9,961,978	負債・基本金等の部合計	9,961,978

2) 経年比較等

ア、貸借対照表

比率 (×100)		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
消費収支差額構成比率	<u>消費収支差額</u>	△19.9	△19.4	△21.9	△23.4	△18.9
	脚注 (a)					
基本金比率	<u>基本金</u>	91.3	92.0	92.3	92.2	92.9
	脚注 (b)					
固定比率	<u>固定資産</u>	103.3	100.4	100.4	106.4	102.5
	脚注 (c)					
固定長期適合率	<u>固定資産</u>	90.4	88.7	88.6	94.1	91.9
	脚注 (d)					
流動比率	<u>流動資産</u>	187.2	205.1	215.8	163.4	196.3
	流動負債					
前受金保有率	<u>現預金</u>	254.0	279.7	277.0	194.7	236.0
	前受金					
総負債比率	<u>負債</u>	21.2	20.2	19.6	19.0	17.3
	総資産					
負債比率	<u>負債-前受金</u>	14.7	13.7	13.2	12.5	11.7
	総資産					
基本金実質組入率	<u>脚注 (c)</u>	72.8	88.4	72.5	88.5	89.7
	脚注 (b)					

a = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

b = 基本金 + 基本金未組入額

c = 基本金 + 消費収支差額

d = 基本金 + 消費収支差額 + 固定負債

イ、消費収支計算書

【人件費比率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
21	52.50	47.91	82.86	67.88	59.63	<u>人件費</u> 帰属収入
20	54.12	58.39	85.06	75.08	63.35	
19	57.10	56.91	88.57	78.11	65.99	
18	56.64	56.28	94.37	74.07	68.28	
17	52.53	54.58	91.48	84.40	65.90	

【教育研究経費比率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
2 1	20.65	15.79	14.10	17.38	17.57	教育研究経費 帰属収入
2 0	21.01	18.55	18.58	18.91	19.71	
1 9	21.38	19.27	16.28	16.40	19.32	
1 8	20.78	18.97	15.81	11.19	18.67	
1 7	21.28	18.96	14.84	9.97	18.48	

【管理経費比率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
2 1	6.75	6.96	4.42	17.57	6.71	管理経費 帰属収入
2 0	7.53	8.30	3.57	15.87	7.26	
1 9	8.12	8.89	2.77	22.42	7.47	
1 8	8.44	8.37	3.18	16.93	7.38	
1 7	8.31	8.42	3.36	16.15	7.69	

【消費収支比率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
2 1	87.70	79.56	103.74	105.81	90.04	消費支出 消費収入
2 0	103.63	107.76	111.52	111.22	107.10	
1 9	104.63	110.34	110.56	117.45	109.18	
1 8	90.64	88.91	117.47	102.21	99.07	
1 7	91.89	89.64	115.21	112.20	100.13	

【経常経費依存率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
2 1	108.39	96.63	244.17	176.35	127.16	消費支出 納付金
2 0	103.54	100.60	242.71	196.70	125.26	
1 9	103.54	99.91	257.12	195.20	128.90	
1 8	102.11	96.71	280.77	177.43	131.00	
1 7	98.67	96.89	281.35	213.10	131.10	

【納付金比率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
2 1	75.43	75.70	42.00	58.97	66.82	納付金 帰属収入
2 0	81.37	87.08	45.08	56.35	73.41	
1 9	84.76	87.17	42.01	60.01	73.35	
1 8	85.43	87.35	40.55	57.60	72.74	
1 7	85.20	86.18	39.18	51.87	71.29	

【寄付金比率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
2 1	0.06	0.33	0.29	0.57	0.20	寄付金 帰属収入
2 0	0.03	0.01	0.35	0.31	0.11	
1 9	0.06	0.00	0.30	0.59	0.12	
1 8	0.05	0.00	0.27	0.28	0.10	
1 7	0.17	0.02	0.24	0.51	0.16	

【補助金比率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
2 1	14.29	9.23	43.81	37.66	20.71	補助金 帰属収入
2 0	15.59	8.11	48.75	34.71	22.17	
1 9	11.93	8.92	46.96	36.68	21.09	
1 8	11.34	8.63	45.66	37.13	20.82	
1 7	11.13	9.05	46.28	29.39	21.18	

【基本金組入率】

年度	大 学	短期大学	高等学校	幼稚園	学園全体	比率 (×100)
2 1	6.77	8.05	1.14	1.73	5.62	基本金組入額 帰属収入
2 0	18.71	18.70	1.88	0.33	14.14	
1 9	16.12	21.07	2.31	0.26	13.41	
1 8	3.76	4.99	3.09	0.00	3.82	
1 7	8.51	6.85	4.33	1.49	6.66	

2) 過年度の資産総額（純資産額）の推移

単位 円

年度	基本金組入額	消費収支差額	純資産額
2 1	10,119,595,019	△ 1,881,115,194	8,238,479,825
2 0	9,913,673,027	△ 2,225,375,469	7,688,297,558
1 9	9,444,969,615	△ 2,023,425,018	7,421,544,597
1 8	9,007,477,443	△ 1,763,895,699	7,243,581,744
1 7	8,883,545,610	△ 1,793,091,962	7,090,453,648